

■ 北海道情報大学学内報



NANAKAMADO



イタリア・ローマトレビの泉 (写真:吉村美穂)

● 目 次 ●

学部長に就任して 経営情報学部長 長井 敏行 …2	よろしくお願ひします ……6~8
平成14年度 新入生 合宿研修を終えて ……3	就職コーナー ……9
北海道総合通信局長から表彰状 ……4 野幌郵便局より感謝状	イベントサークル紹介 ……10~11
祝 勲五等双光旭日章受章 ……5	主要行事・編集後記 ……12

発行・北海道情報大学

〒069-8585 江別市西野幌59-2 TEL011-385-4411 FAX011-384-0134



学部長就任にあたって

経営情報学部 学部長 ^{なが} ^い ^{とし} ^{ゆき} 長井敏行

平成10年10月26日に大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革方針について」が出されたが、この答申は大学の機能分化をこれからの大学の当然のあるべき姿として表明したものと捉えられている。この答申の中に、次のような記述がある。「大学は、それぞれの理念・目標に基づき、総合的な教養教育の提供を重視する大学、専門的な職業能力の育成に力点を置く大学、地域社会への生涯学習機会の提供に力を注ぐ大学、最先端の研究を志向する大学、また、学部中心の大学から大学院中心の大学など、それぞれの目指す方向の中で多様化・個性化を図りつつ発展していくことが重要である」。これによれば5つのタイプが明示されているが、遡れば、昭和46年の中央教育審議会答申「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について」では、「総合領域型大学」、「専門体系型大学、目的専修型大学」の3つが提示され、昭和59年から始まった臨時教育審議会の1次答申では、多様化が提示され、昭和61年の審議経過概要の中には、4年制大学を専門教育に重点を置く大学「職業大学」、教養教育に重点を置く大学「教養大学」、研究に重点を置く大学「研究大学」等に応じた施策を講じるべきであるという意見がある、との文言が見られた。その後、昭和62年10月29日当時の文部大臣から、「大学等における教育研究の高度化、個性化及び活性化等のための具体的方策について」の諮問を受けた形で、大学審議会での答申・報告が今日まで次々と出されてきた。このように、大学の機能的分化の流れが定着してきたようである。

大学は、理念・目標に基づき、個性を明らかにして差別化をしていかなければ生き残れない「大学淘汰の時代」が本当に目の前にきていることが分かるであろう。

第2は、職業的アイデンティティ確立の指導が必要であろうと思われる。学生の「進路支援」の強化が必要なことは、多くの大学で認識されているところである。ところがそれは「就職対策」

の域を出ない取り組みにとどまっている現状にある、と言われている。社会の変化にともなう学生の価値観の多様化、目的意識の希薄化は、ますます広範囲に広がるのではないかという危機感が募るのは私だけであろうか。いかなる大学といえども例外ではないであろう。先行き不透明感が強まっていく中で、学生は将来への進路見通しが持ちずらくなっているのが現状であろう。自分の人生を預ける対象、社会的活躍の場を想定し、大学における「学び」を実行する目的意識を形成できない学生が少なからず生まれてきているようである。学生の「学び」の意欲が低く、授業が成立しない実態が取りざたされるのも、こうした学生意識の希薄化が原因であると思われる。社会との接点や自己実現を望んではいるが、社会的役割を果たしていくことに価値と「学び」の目的を見出せず、勉学に熱が入らない自己中心的な生き方を志向する学生が少なくない。これらの学生に対する「進路支援」は大学にとって重要な課題であろうと思われる。

大学で学問や専門知識・技術を学べることそのものが「進路支援」にほかならないのであるが、この前提となる「学び」自体が成立しにくい状況となっている。そうであれば、学生に人生の目的を発見し進路目標を定めて大学での「学び」の意義をしっかりと掴み取らせるという課題は、大学の存立の意味にも関わって来ることであろう。この意味でも、学生の進路支援は、学生の進路目標設定と実現のために、大学教育の組み立てとカリキュラムをどう改革・強化していくかということは、重要な問題であると思われる。

最後になったが、安心して研究・教育に打ち込める状況を作らなければならない。そのために、微力ではございますが、全力を尽くす所存です。以上、日頃感じていることを紹介し述べさせていただきました。就任の御挨拶に代えさせていただきます。



平成14年度 新入生 合宿研修を終えて

学生部長 情報メディア学部教授 坂上 修二

平成14年4月4日(木)、経営情報学部にて248名、情報メディア学部にて215名、合計463名の新入生を迎え、翌5日(金)、6日(土)の2日間にかけて新入生合宿研修を実施しました。昨年度から情報メディア学部の開設に伴って500名近い多くの新入生を迎えるようになり、合宿研修も大規模なものとなりましたが、今回は昨年度の経験があったためか、気持ちの上で少し余裕を持って実施することができたように思います。

今年度は研修日が観光客の多い金曜日、土曜日となったため昨年利用したホテルミリオオーネが利用できず、定山溪ビューホテルを一般の宿泊客と共に利用することになりました。そのため、学生の管理、諸設備利用の面で昨年度以上に注意する必要があり、また研修日が例年よりも3日以上早くなったため学生課、教務課の方々の準備が厳しかったのですが、何とか無事に実行に移すことができました。

さて、それでは合宿研修の状況をざっと述べたいと思います。5日の午後1時に新入生でほぼ満員の松尾記念館の講堂において先ず全体研修が始まり、次に二つの大教室に分かれて学科別オリエンテーション、再び講堂において体育系運営委員会主催による熱のこもったクラブ紹介という順で進行了しました。

全体研修では昨年とほぼ同様、『合宿研修の意義と学生生活上の諸注意』、『初めての大学教育』、『教職課程』、『履修登録』、『図書館の利用法』、『実習室の利用法』などについて説明・アドバイスがあり、学科別オリエンテーションでは学科の履修モデルや教育内容の解説がありました。色々な話が立て続けにあったため、新入生の皆さんは頭が飽和・混乱状態になったかもしれません。クラブ紹介では、学生の運営委員会が初めてクラブ紹介パンフレットを作成・配付したため、分かりやすく、かつ大変興味深かったようで、かなり効果が上がったのではないかと思います。

午後4時半頃、バス16台にて定山溪ビューホテルに向けて出発、同6時近くに到着。全員、大広間においてお膳形式で夕食をとりましたが、これはなか

なかの壮観でありました。ただ、若者の好みに合っていなかったようで、やはりバイキング形式の方が良かったのかと思っております(今回のビューホテルでは残念ながらできませんでした)。

夕食後、8時からクラス別ガイダンスが始まり、先ずクラス担任から大学教育を受ける意味、学生生活上の諸注意などについて説明があった後、簡単な自己紹介、および体育祭や大学祭での実行委員として活躍するクラス代表の選出が行われました。今年は積極的にやりたいという学生が結構いたと聞いております。翌日9時からのクラス別ミーティングでは科目履修上の注意について説明がなされ、ミーティング終了後、大学に向けて出発、昼過ぎに到着ということで無事合宿研修を終了しました。

以上のような流れで合宿研修は進みましたが、クラス別ガイダンス/ミーティングでは学生生活上の諸注意は勿論のこと、科目履修上の注意事項に関しても説明を行ったのですが、実は履修手続きに関しては今年は研修前に教務課から詳細な説明が行われたため、学生は2度、3度と同じような話を聞くことになり無駄に感じられたかも知れません。しかし、履修の話、手続きは新入生の皆さんにとって最も重要なことであり、しかも教職課程も絡んで複雑となっていることから2、3度聞いても損はなかったはずですし、クラス別ミーティングでならば質問もしやすいのでは、と考えておりました。いずれにしても来年度は調整を図る必要があると思っております。

今回の合宿研修で新入生の皆さんの疑問や不安を全て解消できたとは思えませんが、かなり理解して貰えたのではないかと思います。早く大学生活を軌道に乗せ、目標を持って学業とスポーツ、趣味やアルバイトなどのバランスを取りながら、楽しく4年間の大学生活を過ごされることを心より願っております。

最後になりましたが、500人近い大人数の合宿研修を実施するに当たり、ご協力頂きました関係各位の皆様へ深く感謝申し上げます。

北海道総合通信局長から表彰状

6月3日、北海道テレコム懇談会（伊藤精彦会長）、北海道総合通信局（松本正夫局長）、北海道電波協力会（長沼修会長）は、「電波の日（6月1日）」にあたり「平成14年度電波の日・情報通信月間」記念式典を札幌グランドホテルで開催し、表彰並びに講演会を行いました。

その席上、北海道総合通信局長より情報通信の発展に貢献した、個人団体に表彰状が贈られ、本学もこの栄に浴し、久野学長が受賞致しました。



(表彰状を受賞する久野学長)

野幌郵便局より感謝状

4月23日、野幌郵便局に於いて第69回郵便記念日に当たり、記念式典が行われました。

その席上、日頃の郵政事業への支援と協力に対し、感謝状の贈呈が行われました。

本学も日頃の功績が認められこの栄に浴し、中居事務局長が受賞致しました。



(感謝状を受賞する中居事務局長)



勲五等双光旭日章受章

— 今田末吉氏叙勲祝賀会・開かる —

2002年の春の叙勲で、前事務局長の今田末吉氏がめでたく、勲五等双光旭日章を受章されました。6月21日に氏の功績を讃え、祝賀の集いが札幌市の札幌ガーデンパレスで多数の関係者が列席し盛大に開催されました。

今田 末吉 氏の略歴

生年月日 大正14年3月28日生
 出身地 北海道
 昭和26年5月 北海道大学
 昭和34年1月 北海道大学結核研究所会計掛長
 昭和35年4月 北海道大学法学部会計掛長
 昭和37年4月 北海道大学経理部経理課管理掛長
 昭和42年12月 北海道大学経理部主計課総務掛長
 昭和43年4月 北海道大学医学部附属病院業務課課長補佐
 昭和45年4月 北海道大学法学部事務長
 昭和52年4月 北海道大学教養部事務部長
 昭和58年4月 北海道大学工学部事務部長
 昭和60年3月 北海道大学定年退職
 昭和60年4月 (財)クラーク記念会 常務理事
 昭和61年4月 学校法人電子開発学園
 北海道情報大学設立準備室
 平成元年4月 北海道情報大学 事務局次長
 平成2年10月 北海道情報大学 事務局長
 平成14年3月 退職

山本 久野 氏
旭日章受章記念祝賀会



(功労を讃える久野学長)



(謝辞を述べる今田前局長)



よろしくお願ひします

昨年9月におひとり、本年4月1日付で4人の先生が新たに着任されました。簡単なプロフィールや趣味等を含めて戴きながら自己紹介をお願い致しました。(掲載は順不同)



経営情報学部 教授

もり さわ よし じみ
森 澤 好 臣

この度、経営情報学部の教授に着任しました森澤好臣です。

本年3月末まで、民間コンピュータ会社 日本ユニシス株式会社に35年間勤務していました。多くの方々がコンピュータに馴染みがなかった頃に、米国で大型汎用機の商用コンパイラ(Fortran, PL/I)を開発し、日本市場に導入提供保守する業務に従事していました。その後、人工知能関連のソフトウェア、システム開発方法論、ソフトウェア工学等の研究開発に従事しています。ここ数年間は、EビジネスとWebサービス等の21世紀の新しいビジネス形態や社会システムのあるべき姿やソフトウェア・アーキテクチャをマーケティング企画部門の立場から研究し、Eビジネスのためのソフトウェア・アーキテクチャやソリューション体系を作成し、企業メッセージとして業界や社内システム・エンジニアに情報発信し、成果をソフトウェア工学の国際会議等で研究論文として発表していました。

5年前に、30年にわたる日本の情報処理産業の発

展と共に得た知識・経験を、教育機関で次の世代の人達に伝えたく思い、平成10年4月より奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科後期博士課程に入学し、学位取得を目指して会社生活と学生生活の二足の草鞋をはき、本年3月に学位を取得しました。学位論文の提出時期に北海道情報大学の教員公募を知り、多くの幸運な偶然が重なり4月に着任しました。

私のこれまでの経験が、21世紀の社会システムの担い手となる北海道情報大学の若い学生諸君の勉学の一助になればと思っています。世界がもし100人の村だったら、「村人のうち、1人が大学教育を受け、2人がコンピュータを持っています。けれども、14人は文字が読めません」*。学生諸君と共に、一人目の村人であることの幸運に感謝し、学び続けたいと思っています。

私の生まれは、兵庫県姫路市です。大学は大阪、勤務は東京、大学院は奈良でした。北海道は数回の旅行、数回の業務出張で訪問しただけです。縁もゆかりもなかった北海道でしたが、20代後半に3年近く生活した米国ミネソタ州を彷彿させる多くの風景に遭遇し、懐かしくまた第二の故郷に帰ったような気持ちになっています。家族は、妻と娘が3人、長女が東京に、次女が結婚して我孫子市の自宅近くに、三女が自宅から、それぞれ社会生活をおくっています。

最後になりましたが、学生諸君そして教職員の皆様、新米の先生ですが、よろしくお願ひ申し上げます。

*:「池田香代子 再話、C.ダグラス・スミス対訳:世界がもし100人の村だったら、マガジンハウス(2001)」



経営情報学部 講師

むこう はら つよし
向 原 強

昨年9月に、経営情報学部の講師として着任しました向原です。学部、大学院、助手を通じ、北海道大学経済学部で学んできました。当初は戸惑うことも多かったのですが、着任して10ヶ月経った今日になって、本学の文化に慣れ親しんできたように思えます。

私の専門は「オペレーションズ・リサーチ(OR)」というのですが、講義は「経営情報システム論」

を担当しています。一般の人の観点からすると、ORは数学的理論のイメージであろうし、経営情報システムのイメージはコンピュータでしょうから、一見かけ離れて見えるかもしれませんが、実際はそうでもありません。なぜなら、OR理論を現実世界の中で活用しようとするれば、情報システムという道具が必要不可欠であることは間違いないからです。また、IT社会と呼ばれるほど情報技術に対する期待が高まっている今日ですが、期待ばかりが先行し、「どのように活用していけばよいのか？」よく分からないというのが現実の状況ではないかと思えます。ORのような理論武装がなければ、その場しのぎの道具にしかなりえません。このような観点から、OR理論を利用した問題解決を実用化する情報システムを構築することが私の一番の関心事です。

ところで、私は経営学科の所属なので、ゼミ学生は全員経営学科です。しかし、私の基本的方針からゼミでは「情報システム」と「OR」の双方を勉強し

ていこうと思っています。どちらも、文系学生にとっては面食らう分野かもしれませんが、逆に強みに感じて欲しいと考えています。「経営学」をベースとして、「情報スキル」と「理論武装」の双方を備えた人材はそういるものではありません。そのような貴重な人材を育てることが、私のもう一つの関心事です。

現在3年生しかいないゼミでは、もっぱら「Java」を勉強しています。高校時代、教科書で勉強することしか知らない学生にとっては、たぶん単なるプログラムの勉強としか思っていないかもしれません。しかし、その中で、自分でプログラムを作ることができるという楽しさや、教科書には答えがない実験のおもしろさを感じとって欲しいと思っています。4年生がいないため、ゼミは2コマ続きで苦痛そうですが(笑)、学生もなんとかがんばっています。そんな学生のがんばりに応えられるように、学生ともども切磋琢磨していきたいと考えています。



経営情報学部 講師

谷口文威

今年4月から経営情報学部経営学科講師に着任した谷口文威です。担当はプログラミング言語ⅠとゼミナールⅠです。ゼミナールでは、e-ビジネスと言われている分野で使われる情報技術がどのようなものなのかを知ることで、その限界と問題点および解決法を推測・提示できるようになることを目的として、学生とともに勉強しています。

私の研究分野のことについても少し。去年まで北海道大学大学院の博士課程に在籍していました。専門はパターン認識という分野で、特に複数の見方(切り口)を使って問題を解決するという方法論に基づいたアルゴリズムの設計や解析に関する研究を行っています。ものをカテゴライズする研究というところ、わりやすいでしょうか。

私の趣味はコンピュータと読書です。サッカー観戦も好きですので、今年は私にとって非常に良い年です。ところで、コンピュータが趣味と言っても、

ハードウェアにはまったく詳しくありません。私のコンピュータに関する興味はソフトウェアに限られています。オープンソースという言葉を知ったことのある方も多いと思いますが、そのオープンソースと呼ばれるプログラムを読むことと書くことを楽しんでいます。プログラム(ソフトウェア)というのは、誰かに使われるために作られたものですが、その目的を達成するためにどのように実装されているのかということを知ることはなかなか楽しいことです。目的(使うこと)を見失ってプログラム優先にならないように自分を戒めつつ、プログラムの海で遊んでいます。もう一つの趣味、読書のことを少し書きます。文字のあるものなら何でも読むという感じなのですが(無節操)、最近は初学者向けの数学の本と短歌集に興味があります。推薦書があれば、是非教えていただければありがたいです。

情報技術という言葉が日常会話でも普通に使われるようになってから幾分時間が過ぎました。良くも悪くも、情報技術は我々の生活になくはならないものになってしまっています。学生のみなさんには、情報技術(という言葉)にだまされないような知識と見識を持つように本学で学んでいただきたいと思っています。そのために私が手助けできれば良いなあと思っています。



経営情報学部 講師

たか せ ひさし
高瀬 央

長いこと「学生」をやっていた。1991年に慶應義塾大学に入学してから、今年の3月に中央大学大学院を修了するまで、長いこと「学生」という身分だった。(もっとも、そのうちの2年は「大学院浪人」という身分だったが…)。そんな私が在学していた慶應、中央には、その長い歴史のもとに築かれた「校風」があった。その長い歴史ゆえにもつことができる「校風」があった。翻って本学は、創立から14年と比較的「若い」大学である。その「校風」は、今まさに築かれつつあるといえる。その本学に、私はお世話になることになった。本学の「校風」を築き上げる一員となった。今年の3月まで学生だった私に、本学の「校風」の形成にどれほどの寄与ができるかはわからない。が、僅かながらにも、その形成にかわり、貢献できれば、と思う。

長いこと「学生」をやっていた。大学3年生のときに会計学を専門とする教授の研究会(ゼミ)に入学して以来、もっぱら会計学を研究の対象としてきた。会計とは、企業の経済活動を認識し、測定し、その情報を伝達する行為であるといわれる。つまり、会計は情報の伝達行為のひとつである。翻って本学は、「情報」と名のつく大学である。「情報」と名のつく本学に、会計というひとつの情報伝達行為にかかわる講義科目があるのは、至極当然、ともいえる。その本学に、私はお世話になることになった。本学で会計にかかわる講義科目を担当することになった。今年の3月まで学生だった私が、会計にかかわる講義科目を「教授する」ことはおこがましい。私にできることは、本学の学生に、私の僅かながらの会計にかんする知識という情報を伝達し、そこから(学ぶというほどのものがあると思えば)なにかを学び、問うてもらうことだ、と思う。

長いこと「学生」をやっていた。今年の3月まで学生だった。だからこそ、これからも、会計学という分野だけでなく、さまざまなことを本学の学生と一緒に学び問うていくという姿勢を忘れたくない、と思う。



情報メディア学部 教授

はた の まさ たか
羽田野 正 隆

さる3月末日で北海道大学を定年退職し、縁あってこちらに参りました。情報メディア学部で応用メディア演習と総合演習という科目を担当することになりますが、北大で行ってきた情報処理や地図利用重視の地理学を本学でも展開したいと考えています。

私と情報処理との関わりは1960年代後半、東大の助手時代、世界地図の開発に電子計算機を使ったことに始まります。当時データはすべて手作り、これを大学の大型計算機センターに運び、ロール式の作図機から出てくる結果に一喜一憂したものです。1975年に北海道大学文学部に赴任後は、統計処理に当時開発中のSPSSを使ったりしましたが、結果を文字や記号で地図化するのに、苦勞したことを覚えています。和文タイプライターの電子化が緒ついた頃ですから、電算機はまだまだ使いづらい道具でした。その後研究室の整備や教養部・学部そして大学院の

教育に追われるようになったため、カセットテープ方式の計算機を導入して、最小限のデータ処理に役立てていました。

そんな時代が続いた後、電算機との関わりが再び本格化するのが、1990年代の始め頃からです。もうコンピューターという方がふつうになっていたこの機器は、確かに便利になっており、おかげでテキストの電子化やデータベースの作成がずいぶんはかどりました。教育面でもコンピューターの利用とは不可欠になっていて、インターネットによる地域情報の収集から各種ソフトウェアを用いた分析まで、おおいに恩恵に浴してきたのですが、できあがってきた卒業論文などを見て、なにか物足りなさを感じ始めたのもその頃のことです。情報化第一世代の私もからみて夢のようなこの機器が、その重宝さゆえに学業本来のあり方を希薄化するとしたら、さして有難味もないことになります。そしてそうならないよう、本学では情報化時代におけるツールとの関わり方を若い諸君と模索していきたいと考えています。

小学生時代を十勝野で過ごしたことが原風景となって、やがて地理学を志した私には、野幌の森はふるさとに回帰したように懐かしく、このような恵まれた自然環境のもとで仕事が続けられることに感謝しております。

就 職 コ ー ナ ー

就職指導スケジュール 【学部3年生・大学院1年生対象】

9月13日（金）5 講目 202教室 第3回就職説明会

就職コーナーの活用方法や就職希望登録票の配布、就職活動の進め方の詳細について説明があります。就職希望登録票は大学による就職活動支援の基礎となるものです。これまでに行った適職診断テストの結果等を十分に検討したうえで記入しましょう。

9月下旬（詳細日程未定）松尾記念館講堂（予定）外部講師による講演

外部講師を依頼しての講演（日程及び内容の詳細は未定）

10月4日（金）5 講目 202教室 第4回就職説明会

現在の就職活動はインターネットなしには考えられません。この説明会では、外部講師による就職活動の実践的アドバイスと、インターネットを利用した就職サイトの具体的な使用方法について講義を行います。

10月11日（金）5 講目 202教室 第1回履歴書作成指導

履歴書の作成指導を行います。実際に履歴書に記入し提出してもらいます。

10月18日（金）5 講目 201・202教室 クレペリン検査

クレペリン検査とは一般企業でも多く使われている適性試験のひとつです。内容は一桁の数字の足し算を前半15分、後半15分の合計30分行ってもらいます。診断結果としては、作業量や疲労度、精神面など自分であり意識していない部分が数値として現れます。

10月25日（金）5 講目 202教室 SPI試験

SPI試験とは採用試験で多く使われる適性検査のひとつです。能力検査と性格検査から構成されています。対策によって結果に差が出やすい試験ですので、本番の前に一度経験しておくことをお勧めします。11月9日（土）に行う解き方の解説講座とセットになっています。

10月26日（土）半日 203教室 公務員試験対策講座（有料：一人3,000円の予定）

外部講師による公務員試験の対策講座を行います。試験の日程、併願のコツ、試験の内容と傾向、受験勉強の仕方などについての講義と、教養試験の模試を行います。

ただし教員の採用試験は除いた内容です。

11月1日（金）5 講目 202教室 第2回履歴書作成指導

履歴書作成指導の2回目です。前回の履歴書指導で提出されたものを添削して返却します。

11月8日（金）5 講目 202教室 第2回模擬適性検査

実際の就職試験を念頭においた模擬試験です。

11月9日（土）終日 202教室 SPI解き方講座

10月25日に行われたSPI試験の結果を返却し、その解き方のコツを1日かけて講義します。

これ以降も、第2回一般常識テスト、第5回就職説明会、エントリーシート試験、論作文対策講座、ビデオ説明会、女子学生対象就職説明会、面接レッスン講座、個人面談と続きます。

イベントサークル

国際交流委員会の活動の一環として北海道情報大学のイベントサークルが 参加した江別市における国際交流の活動をご紹介します。

イベントサークルは、講義の合間にサッカーをして楽しむ友達が集まって2001年に発足しました。

当初はよさこいソーランに参加するのが目的でした。でも、それだけでは活動量が少ないのではないか
と思い、色々な事に挑戦してみようと決心しました。何をしようかと考えていたときに、前田先生から学
生課を通して江別市の国際交流のボランティアをしてみたらどうかと誘われました。

最初のイベントは「江別の冬を楽しもう」(2002年2月)というものでした。内容は、江別にいる外国
の人たちと一緒に雪像や、スノーキャンドルを作るというものでした。私たちは雪像を作りたいと考えて、
不安もありましたが、約10名程度が参加しました。

当日までの準備はこのイベントの実行委員会で打ち合わせをして、どのような雪像を作るか、それらを
どのように配置し、人を割り振るかなどを考えました。実行委員は私たちイベントサークルからは2人、
浅井学園大学からは3人、江別市国際センターと一般から4人でした。会議は毎回楽しく、着実に進んで
いきました。

前日、学生で軽い打ち合わせをして当日の下準備をしました。雪が思ったより硬く難航しました。時間
が経つにつれて少しずつ形になっていきました。そして当日、作業に子供たちや外国の人たちが加わり、
より楽しく着実に完成に近づきました。私たちが外で作業をやってる間、センター内ではバザーや、色々
な国の料理、写真などが楽しめました。

雪像が完成してスノーキャンドルに点火した時の光景が、忘れられないくらいに綺麗で、やり遂げた
という感覚がこみ上げてきました。

2回目の参加は「ようこそ江別へ2002」(2002年4月)。今回は、私が副実行委員長という立場で参加
しました。このイベントの主旨は、日本に留学してきて江別市に住んでいる外国人の方々に江別の街を紹
介して交流しようというものでした。

今回は2つの企画に分けて、内容を検討していきました。一つは市内を案内するバスツアー、もう一つ
はセンター内での歓迎会です。

内容の企画はほとんど全てが学生で検討して、どのようにすればよいかなどを話し合いまとめました。
全てを企画するのは、初めてのことなので手探り状態で企画を立ち上げていき、準備を固めていきました。
うまくいくか不安な面もありましたが、自分たちの成功を祈り当日に挑みました。

バスツアーは、市役所や、病院など利用する事が多い施設や江別の歴史、日本独自の文化などを紹介す
るというものでした。江別の歴史に触れるということで「屯田兵資料館」や、「ガラス工芸館」などを見
学しました。途中立ち寄った公園では、ちょうど桜の時期で、留学生の皆さんは「とても綺麗だ」と言っ
て喜んでいました。

歓迎会では、日本の伝統楽器(三味線、琴、しちりき、竜笛、しょう)の演奏や、パフォーマンス(南
京玉簾)などが披露されました。また、折り紙などを教えながら交流などもしました。後半のほうには各
国の人たちから歌の披露など、普段聞くことのできないような子守唄や、有名な唄などを聞くことがで
きました。

活 動 紹 介

留学生の方たちが喜んでいたので見るととても嬉しくなり、企画をして当日成功したんだなと実感する事ができました。これらのイベントには、本学の中国留学生である杜娟（トエン）さんと鄭成（テイセイ）さんの二人も一緒に参加して交流し、楽しむことができました。

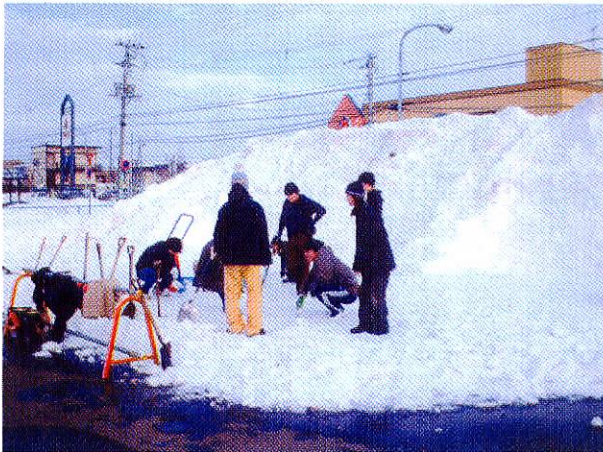
これらのボランティアを通して色々な体験をする事ができました。普段感じる事のできないものを感じたり、見たり、体験する事ができてとても面白くためになりました。もちろんこれからもボランティアに参加する予定です。

ここからは宣伝

私たちイベントサークルは、これからも国際ボランティアや、色々なイベント（雪合戦大会、雪祭り、サロンフット大会）に参加予定です。興味がある人はどの部門でもいいので参加してください。

イベントサークル代表：中野龍彦

2002.06.24



(江別の冬を楽しもう、2002年2月)



(ようこそ江別へ、2002年4月)

◆◇ 4月～6月主要行事 ◆◇

☆ 法人本部 ☆

- 5月9日(木) PINE-NET協会創立10周年記念式典
26日(日) 情報通信月間参加行事
(北海道情報技術研究所と共催)

☆ 大 学 ☆

- 4月2日(火) 情報メディア学部教授会
〃 経営情報学部教授会
4日(日) 入学式(入学者 経営学科 108名
情報学科 140名
情報メディア学科 215名
大学院 12名)
- 5日(金) 新入生合宿研修
6日(土) 〃
19日(金) 企業説明会
24日(金) 全学教授会
- 5月17日(金) 経営情報学部教授会
24日(金) 情報メディア学部教授会
31日(金) 全学教授会
- 6月10日(月) 創立記念日
14日(金) 経営情報学部教授会
21日(金) 情報メディア学部教授会
26日(水) 体育祭
27日(木) 〃
28日(金) 全学教授会

☆ 通信教育部 ☆

<入学選考>

- 4月3日(水) 第8回入学者選考
10日(水) 第9回入学者選考

<入学式>

- 4月12日(金) 第9回入学式

<前期地方スクリーニングI>

- 5月31日(金)～6月2日(日) 全国5ヶ所
6月7日(金)～6月9日(日) 全国12ヶ所
6月11日(火)～6月13日(木) 新潟

<前期地方スクリーニングII>

- 6月21日(金)～6月23日(日) 全国14ヶ所
6月28日(金)～6月30日(日) 全国4ヶ所

<教育総合演習スクリーニング>

- 4月12日(金)～4月14日(日) 本学
4月19日(金)～4月21日(日) 東京
4月26日(金)～4月28日(日) 全国3ヶ所

<前期レポート提出期限>

- 6月24日(月)～7月1日(月)

◆◇ 広報活動 ◆◇

- 5月31日(金) NHK総合テレビ金曜ひろば640にて本学紹介
6月29日(土) オープンキャンパス(第1回)
〃 通信教育部説明会(第1回)
於東京スクーリング会場

* 校内ガイダンス *

- 4月23日(火) 札幌白陵高校
5月20日(月) 駒大岩見沢高校
6月6日(木) 札幌第一高校
6月11日(火) 恵庭南高校
6月19日(水) 札幌星園高校

* 平成15年度新規指定校訪問 *

- 5月 道内31校

* 高校訪問 *

- 4月～6月 道内約420校(延数)

* 進学相談会 *

- 5月 道内 1会場 道外 1会場
6月 道内 12会場 道外 10会場

* 高校教員対象学校説明会 *

- 6月5日(水) 大阪教育センター
6月6日(木) 北九州教育センター
6月7日(金) 福岡教育センター
6月14日(金) 鹿児島教育センター

* 合同保護者説明会(北海道情報専門学校と共催) *

- 6月4日(火) 帯広会場
6月5日(水) 釧路会場
6月6日(木) 北見会場
6月7日(金) 旭川会場
6月10日(月) 函館会場

◆◇ 主な来校者 ◆◇

- 5月17日(金) 北海道人事委員会事務局員 1名
5月21日(火) 白樺学園高校教員 2名
6月4日(火) 白樺学園高校生徒 39名、引率教員 2名
(札幌地区大学キャンパス見学会)
- 6月24日(月) カリフォルニア大学
サンタクルーズ校カーン工学部長

編集後記

日本中を熱狂させたワールドカップも、昨日で終わりブラジルが優勝した。波乱が多いといわれた今大会は実に興味深かった。勝つはず(皆がそう思っているだけ)のチームが負け、その対戦相手が勝つ、勝負の不思議と面白さであろうか。とにもかくにも日本の善戦に拍手を送りたい。多くの国民の期待に充分応えたと思う、次回が楽しみである。(S)

北海道情報大学学内報

「ななかまど」第23号

発行日 平成14年7月1日
発行 北海道情報大学
編集 学内報編集委員会